

2011年 司書部 夏期研修会

日時：2012年8月21日（火）

場所：大阪府立今宮工科高校

参加者：31名（府立21 私学9 国立1）

内容：「ビブリオバトル ～新しい形の読書会～」を体験しよう。

講師：ビブリオバトル普及委員会 関西地区担当 吉野英知 氏

今、本好きの間で徐々に人気を博してきている新しい形の読書会“ビブリオバトル”。高校での導入に向けて講義を聞き、実習を行いました。

<午前の部> 「ビブリオバトル」についての講義 及び 少人数でのビブリオバトル実習

1) ビブリオバトルとは

ビブリオバトルは、2007年に京都大学の谷口忠大氏らが考案し、その後全国に展開された普及委員によりビブリオ普及委員会を立ち上げられた。現在、このビブリオバトルは公共図書館でのイベント等に取り上げられている。全国的な拡大の動きがあり、学校での取り組みとしても広がってきている。ビブリオ普及委員会自体は任意団体である。

ビブリオバトルは従来の「読書会」「輪読会」ではなく「新しい形の書評会」として提案された。読書が苦手な人間にとって「読書」はつまらない、退屈、暇つぶしというネガティブなものであり、これでは読書を推進しても効果が得られない。読書は「ひとりの行為」なので、他人とのコミュニケーションに発達しにくく、「インプット」のみの行為だからつまらないと感じるのではないかと、ツイッターやフェイスブックなど今増えている情報メディアのように、読書も複数とのコミュニケーション要素を含み、アウトプットできる機能を盛り込めば面白いものになるのではないだろうか、と考えた。さらに、単なる「書評会」ではなくもっと気楽に、かつ面白くということで、ゲーム性とプレゼンテーションの要素を加えスポーツのように楽しむカタチにした。称して「知的書評合戦」である。

2) ビブリオバトルの公式ルール

- (ア) お気に入りの本を持ち寄る。(課題本は指定しない。) テーマを決めることはある。
- (イ) 5分で持ち寄った本の素晴らしさについて発表する。(読みたいなという思いを込める)
発表形式は自由だが、レジュメ等原稿は読まない。
- (ウ) セッションタイム(2～3分)を設け、質問に答える。(双方向のコミュニケーション)
- (エ) チャンプ本(最も読みたくなった本)1冊を挙手で選ぶ。(ゲーム性を高めるために)

3) ビブリオバトルのコンセプト

気軽な気持ちで、スポーツ感覚で本の世界を楽しめるのがビブリオバトルの醍醐味である。双方向のコミュニケーションが活性化されれば、今までに出会いそうにない本(難解である、関心がなかったなど)でも、知的好奇心がくすぐられ手に取ってみるかもしれない。また、「本を通じて人を知る・人を通じて本を知る」(発表者の見方を知る)ことで、より深く本を読むことができるし、視野が広がり、自分の知らなかった世界に出会えるだろう。児玉清さんの書評番組を「サッカーの世界戦」とするなら、ビブリオバトルは「フットサル」くらいの気持ちで本の世界が楽しめればいいと思う。

4) ビブリオバトルの教育的効果

- ① 様々な本の世界を知ることができる
- ② 読書の習慣づけのきっかけを与えられる
- ③ アウトプット行為を通じて本の内容や理解を整理できる
- ④ 短時間でのプレゼンテーションがうまくなる
- ⑤ 聞く行為の集中力を高められる など

5) グループで体験

講義を受けて、まずは体験してみようということで、参加者それぞれ5人1班に分かれて班ごとにビブリオバトルを行った。

以下、それぞれの班で紹介された<プレゼン本>およびその班の<チャンプ本>一覧

- A 班
- ・『十一月の扉』 高樓 方子著 新潮社 **★チャンプ本**
 - ・『夏の虹 みをつくし料理帖』 高田 郁著 角川春樹事務所
 - ・『キケン』 有川 浩著 新潮社
 - ・『舟を編む』 三浦 しをん著 光文社
 - ・『わたくしが旅から学んだこと』 兼高 かおる著 小学館
- B 班
- ・『母一オモニー』 姜 尚中著 集英社 **★チャンプ本**
 - ・『銀二貫』 高田 郁著 幻冬舎
 - ・『俺俺』 星野 智幸著 新潮社
 - ・『うなぎ—地球環境を語る魚 岩波新書』 井田 徹治著 岩波書店
 - ・『30日間マクドナルド生活』 マツモトケンジ著 祥伝社
- C 班
- ・『ムーミン谷の仲間たち (春のしらべ)』 トーベ・ヤンソン著 講談社 **★チャンプ本**
 - ・『キッズ・パワーが世界を変える』 グレイグ・キールバーガー著 大月書店
 - ・『怪物はささやく』 パトリック・ネス著 あすなろ書房
 - ・『八朔の雪 みをつくし料理帖』 高田 郁著 角川書店
 - ・『妖怪アパートの幽雅な日常』 香月 日輪著 講談社
- D 班
- ・『レインツリーの国』 有川 浩著 新潮社 **★チャンプ本**
 - ・『雨あがりのメデジン』 アルフレッド・ゴメス＝セルダ著 すずき出版
 - ・『チア男子』 朝井 リョウ著 集英社
 - ・『おしまいのデート』 瀬尾まいこ著 集英社
 - ・『つばさものがたり』 雫井 脩介著 小学館
- E 班
- ・『虹の岬の喫茶店』 森沢 明夫著 幻冬舎 **★チャンプ本**
 - ・『「また、必ず会おう」と誰もが言った』 喜多川 泰著 サンマーク出版
 - ・『阪急電車』 有川 浩著 幻冬舎
 - ・『虹色ほたる』 上・下巻 川口 雅幸著 アルファポリス
 - ・『3秒間リラックス』 ミナ・ハミルトン著 デスカヴァートゥエンティワン
- D 班
- ・『熊の場所』 舞城 王太郎著 講談社 **★チャンプ本**
 - ・『鉄は魔法つかい—命と地球をはぐくむ「鉄」の物語』 畠山 重篤著 小学館
 - ・『魔法の声』 コルネーリア・フンケ著 WAVE 出版
 - ・『the Help ヘルプ 一心がつなぐストーリー』 上・下巻 キャスリン・スケット著 集英社

・『トッカン―特別国税徴収官―』 高殿 円著 早川書房

6) アフターレビュー

★取り上げる本は、何でもいい。

漫画でも可能ではあるが、メジャーな漫画はみんなが知っているのでプレゼンが難しい。絵本や広辞苑がチャンプ本になったこともある。発表者の構成によって勝敗は変わってくる。

★5分間という時間設定について

長いと感じるかもしれないが、3分では表面的な説明だけで終わってしまい内容が薄くなる。5分することで深く読み込み、内容を整理する必要が出てくるためプレゼンも深まる。授業中に行う場合は時間の制約もあるだろうが、5分で取り組んでほしい。

★勝敗は本の内容か、しゃべりの上手さか？

聞き手によって価値観が違うので、しゃべり方がうまいだけで勝つとは言えない。

★必ずチャンプ本を決定しなければならないのか？

チャンプ本を決めることによって、ゲーム性も高まり、聞く側の集中力も高まる。



<午後の部> 全体でのビブリオバトル実習とそのアフターレビュー 及び まとめ

1) 各班からのチャンプ本による全体でのビブリオバトルを行う。

その結果、全体でのチャンプ本は

『虹の岬の喫茶店』 森沢 明夫著 幻冬舎

に決まりました。

2) アフターレビュー

★記憶に残りやすくなるのでテーマを設けるのもよい。

★発表者人数は4～6人がよい。集中力が途切れないで行える。

★司会進行の視点から気を付けること

発表前の雰囲気を温める。質問が出やすい雰囲気を作る。もし質問が出ない場合は、定番的な質問を考えておく。できる限り進行役+質問役に徹し、出しゃばらないようにする。チャンプ本以外の本にも敬意をはらい、発表者への配慮をする。

★「チャンプ本」を決めることの意味

聴衆に評価するという役目を与えることで、真剣に内容を吟味して聞ける。また、投票を挙手で行うことで、聴衆もそれぞれ選ぶことに責任を持つ。

3) 高校現場でのビブリオバトル導入に向けて

★一般的な授業との相違

評価権限は聴衆(生徒全員)にあり、指導者(先生)が本やプレゼンの評価をしない。

★発表ごとにコメントすることは差し控える。

生徒同士の双方向のコミュニケーションにならないし、また評価に影響を及ぼすこともある。

★発表の強制にならないようにし、自主性を持たせる工夫が必要。

★原稿スピーチにならないように注意する。

あくまでも、その場の生の言葉で発表する。生徒が照れた場合でも発表の5分間は基本的に司会者は声をかけない。言葉に詰まった場合は司会者が(10秒くらいでいいので)引き取り、リセットさせてあげて、新たに投げ返したりする。

<まとめとして>

午前午後共に、講師による丁寧な講義と、それを受けて即実習というプログラムであった。参加者各自が持ち寄った「読みたくなる本」の紹介も大変参考になり、充実できた研修会だったと思う。それぞれ自校においての取り組みも具体的なイメージでとらえることができたのではないだろうか。

ビブリオバトルの具体的な方法は、「ビブリオバトル普及委員会」のHPでも見ることができる。図書館で放課後のイベントとして行うのもいい。見切り発車でも不完全でもとりあえずトライしてはどうだろう。

「ビブリオバトル普及委員会」公式ウェブサイト <http://www.bibliobattle.jp/>

<感想より>

○『『ビブリオバトル～新しい形の読書会～』を体験しよう。』講演の感想

- レジюме・時間配分・司会者としての配慮など、本当に素晴らしく内容の濃い研修会でした。講師の吉野様には感服です。
- ビブリオバトルについて、よくわかりました。ありがとうございました。
- 最近話題になっていて、とても興味があったので、大変参考になってよかったです。校長も興味を持っていたので、是非、帰って報告します。
- 簡単そうなルール設定だが、一つひとつその設定理由を聞いて勉強になりました。(その理由をわかった上でやるのとそうでないのとでは違うと思うので)
- 講師の先生の話はとてもわかりやすく、楽しく研修できました。長時間大変だっただろうと思います。
- 今年度、文化祭で初めて挑戦しますので、ちょうどの事前学習として助かりました。
- 吉野先生のお話が、もちろん周到なご準備と回数をこなされておられるのですが、細部もていねいで、リズム・テンポがよい具合でした。
- 初めての参加だったんですが、これから生徒と楽しく実現出来そうな読書会が見えてきたような気がしました。
- パワーポイントと資料と揃えていただきありがとうございました。深く知ることができました。本日参加されなかった地区の皆さんにも広めたいです。
- 自主体験型の研修で緊張しながらも、講義内容が座学のみとは違って、より身についたのではないかと思います。
- 話題には聞いていましたが、実体験できて身近になった。
- 前回、谷口さんの講演を聞いて興味がわきつつ、実行できずにいました。今日改めて、生徒たちとやってみたいと思いました。
- きめ細かいレジюмеをいただき、説明もとても分かりやすかったです。
- 楽しい形の読書会。今の時代にマッチしていると思いました。
- とても分かりやすく説明をしていただいて、よく理解することができました。
- 話が良くまとまっていて上手、わかりやすい。
- ちょっと興味が…程度で参加しました。思っていた以上におもしろかった。
- 緻密な説明でよかった。アフターレビューでよくわかった。

○『ビブリオバトル』体験の感想

- 発表してみる機会をふめたのが貴重な経験でした。
- 全体発表をされた方は、前回の内容をさらに改良されていたようで、構成などとても勉強になりました。
- 聴衆をひきつけるエピソード、結末への期待感を残す話し方など、あらたな視点を与えていただき、自分の原稿をねり直してみたいと思います。
- 体験することで、発表者、聴衆の両方の気持ちがわかった。自分自身が考えたり、感じたりしたことが、実際に実践するときには意味を持つ。体験、不可欠。
- 図書委員会か図書館のイベントでぜひやってみたいと思います。
- 難しいと思っていたけれど、今回体験してハードルが下がりました。
- 楽しかったです。(研修なのに)
- 初め、実習をともなっているので参加することに尻ごみをしていましたが、やはり、実践しないと自校で導入できないと思っていたので、思い切って参加してよかったです。研修を開いていただいてありがとうございました。
- 聞くは易し、発表するが難し。
- 「積極的な発表者」は縁遠いなあと思いました。新しいを知ることができるのはそのうち何冊読むかは別としておもしろかったです。
- お勧め本を聞きながら、こんな風に説明すると借りようと思ってくれるのではないか…というテクニックが少しわかったような気がしました。
- 本日で2回目でしたが、さらに磨きをかけたいです。
- 書店などで開催されているのを以前から知っていたので、面白そうだなあと感じておりましたが、自分で発表するのは少し気が重かったので、本来ならば聴衆の立場のみの参加にしたかったのですが、実際に小グループでも体験できたことはいい勉強になりました。次に参加する機会があればもっと上手く案内できれば…と思います。学校司書の立場として、今後司会などをやるにしてもとてもいい経験になりました。
- 事前にきちんと実践すると伝えて欲しかった。
- 聞くのと実際にやるのでは、イメージが違いました。読みたい本と読ませたい本は違うことに気づいた。生徒に読ませたい(おすすめ)本は選ばれない。
- 5分間皆の前で話すことはドキドキしましたが、自分の選んだ本を見直すことができ、よい体験でした。
- 体験する事は、すごく良かったです。いろいろ本の事を知ることができ、良かったです。
- プレゼンをする事のむずかしさを感じました。進行役の気配りの大切さを学びました。
- まだよく分からない所が有りなんともいえない。
- 準備(構成)しておけばよかったと痛感。これはやってみないとわからないなと思いました。自分については、あれもこれも言いそびれた、不要なことを話しすぎた…と反省ばかり。聴衆として参加するのが楽しかった。
- 参加するまでは発表なんて嫌だと思っていたが、自分がやって他の人のを聞いている内に楽しく体験できたと思います。



○全体をとおしての意見・感想があればお書き下さい



- ビブリオバトルの実際が、細かく再現していただき、この1回の講演で十二分に理解できました。この秋にでも実施してみたいです。
- 学校でやってみます。
- 資料もたくさん頂き、先生方の本紹介も楽しくよかったです。
- 色々な本と人に会えることができました。
- とてもタイムリーな研修だったのでよかったです。事前準備が大変だったと思います。ありがとうございました。
- あたらしい試みとしてどんどん取り入れていきたいと思います。有意義な研修でした。ありがとうございました。
- 学校ではどうしても教育的効果がついて回ることがどうも…。
- なかなかビブリオバトルに参加出来なかったが、今回参加出来て来学期に向けて考えていこうと思います。
- 講師の方のご説明、よく分かりました。有難うございました。
- 自分の班の人を選ぶのをルールとして可か否かはっきりさせてほしかった。
- 充実した時間を過ごすことができました。
- 皆さんのおすすめ本を聞かせてもらう事は、次の仕事のヒントになりました。ありがとうございました。
- 今回は発表と判定する側で研修する形になりましたが、プレゼンの工夫については本の紹介の仕方として参考になる点が多かったです。司会進行する役をすることもできればと思いましたが、十分にわかりました。全体を通して楽しく研修することができました。
- タイマーが雰囲気盛り上げていた。
- 今回は図書館関係者なのでおもしろかったが、学校に持ち帰るのはむずかしそう。
- 司会はなかなか大変ですね。